教科の統合的な学びの習得を目指す授業実践

～国語科「書くこと」×体育科「表現遊び」の教科横断的な授業を通して～

教育実践高度化専攻　教科指導重点コース　造形・創造科学系（保健体育）
氏　名（髙根　悠輔）

本実践では、小学校低学年の児童を対象に「教科間の内容的なつながりを生かし、教科の枠組みを残しつつ、指導場面で統合的・統一的に編成する方法」(田中, 2019)である“相関型カリキュラム”をもとに、国語科「書くこと」と体育科「表現遊び」の表現活動を行った。「書くこと」では「絵を見てお話を書こう」の内容を行い、児童の想像力を広げながらつながりのあるお話づくりを行った。「表現遊び」では、表現かるたを用い、動物の特徴を捉えたり様子や気持ちを想像しながら踊ったりした後に、簡単なお話づくりをしながら動物になりきって踊った。

両教科の実施時期を同時期に設定することで、国語科と体育科ともに児童の表現の幅が広がった。題材に対するイメージが高次的になっていくとともに、表現遊びで現れた児童の動きも形骸模倣から誇張模倣・オリジナル模倣に変容していく姿が見られた。知識を体系的に一致させ統合させる過程のなかで、両教科ともに児童の表現が多様に広がり学びが深まったと言える。

教科等横断的な学習に関して、文部科学省が示す「課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成」の段階まで実践を行うことができず課題を残した。児童の学習が教科内で収まらず学びが深まっていく指導について、今後も模索していく。